

*撮影部位

胃体部，前庭部，前壁小彎寄り～後壁（胃体部）

後壁～前壁大彎寄り（前庭部），その他（ストマップ参照）

- ・背臥位正面で下腹部を膨らませたまま頭低位第2斜位へ。
- ・前庭部～幽門前部へバリウムを流さない（振り分け像でない）。

撮影のポイント

- ・前庭部の大彎を正面視する（十二指腸と大彎が外れる体位）。
- ・胃体部より前庭部にポイントを置く。

一口メモ 《なぜ振り分け法でないのか》

検診での第2斜位像は一般的に振り分け像を採用している。振り分け像の示現範囲は胃体部のみである。胃体部の病変の拾い上げは、薄層法が最もよい。胃体部のみであれば四切りの4分割の1枚に十分入る。1枚撮りで行う場合は、前庭部の大彎も目的とする。1枚のフィルムになるべく多くの情報を入れるのがわれわれの仕事である。空気が十分に多い内に前庭部の大彎を正面視して撮影することが、この部位の病変の拾い上げにつながる。



通常像



振り分け像